

氏名(本籍地)	アミール 喜代子(長野県)
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	博甲第60号
学位授与年月日	平成24年3月16日
学位授与の要件	昭和女子大学学位規則第5条第1項該当
論文題目	メタボリックシンドローム改善のための栄養教育効果の評価に関する栄養学的研究

論文審査委員	(主査)	昭和女子大学特任教授	渡辺 満利子
	(副査)	昭和女子大学教授	松本 孝
		昭和女子大学教授	戸谷 誠之
		帝京大学大学院教授	山岡 和枝

論文審査結果の要旨

本論文は、日本人における近年のMetS発症の食要因とされる脂肪の過剰摂取、n-6系/n-3系脂肪酸摂取量の偏重に着目し、MetS リスク保有者を対象として、亜麻仁油摂取を含む栄養教育の効果を検証した内容である。本研究の結果はfeasibility studyの段階であるが、MetS改善のための栄養教育プログラムの科学的評価に必要な具体的な研究デザインの提案を行うなど新奇性ある研究成果を鑑み、学位論文として評価できる。

併せて、本論文は、MetS改善のための栄養教育効果を創出するための独創的研究方法を提案し、特定検診受診者を対象とする介入研究により、基本食摂取(1800±150 kcal/日)、及び基本運動(2.5 Ex/日)の同一条件下での亜麻仁油ALA2.14g/日の2ヵ月間摂取が介入群の腹囲、SBP・DBP、リスク因子数、血清脂肪酸のラウリン酸、パルミチン酸、DTAを有意に低下させ、エネルギー摂取量の適正範囲内維持、大豆摂取量の有意な増加を認め実践プログラムによる栄養教育効果の可能性を提示した。さらに、1年間の縦断研究により、亜麻仁油ALA2.14g/日の2ヵ月間摂取がDHAの増加、FFAの減少やBW・BMI・SBPを有意に減少させる可能性を提示できたことは、内外の先行研究には見られないMetS改善に寄与できる独創的研究方法から創出された新しい知見として評価できる。

しかし、いくつかの課題も残した。本論文の対象者は、自主的参加者で、介入開始時にすでに意欲の高い集団であった可能性は否めず、特に女性はその傾向があると推察される。この点に関しては、適切にスクリーニングし、対象特性に応じた介入方法に改良する余地が残された。また、今後は、無作為化比較試験に基づき検証することが課題である。

本論文は、研究対象者に対する倫理的配慮を遵守し、分析に用いられた統計的手法も正当、かつ適正である。申請者は、研究者としての資質・能力を備えており、今後の研究成果も期待できる。本論文における研究目的・方法に対する妥当な結果は、博士論文に十分値するものと審査委員一同が判断した。